

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	9月～3月	四方滋美

● 実施計画

活動テーマ	
えいごで探求Lab	
活動テーマに関する日頃の興味関心について	
<p>子どもたちは日頃から英語に対する関心が高く、知っている単語を次々に話したり、友だち同士で教え合ったり、真似し合ったりする姿が日常的に見られていました。また、習い事で英会話教室に通っている子どもも多く、給食時やおやつ、戸外遊びの際にも、身の回りの野菜、お菓子、玩具、発見した生き物などを自発的に英語で発音する姿が確認されていました。さらに、飼っているペットや動物園・図鑑で見た生き物など、自分の大好きな身近な題材と結びつくことで、より強い知的好奇心を示す環境が整っていました。</p>	
内容	環境設定・準備物
<p>【9月】えいごってどこ言葉？/アルファベットに親しもう 内容:「HelloSong」や「TheAlphabetSong」の歌・映像を通して音とリズムに親しみ、世界と繋がる挨拶表現(Hello.Hi.)を繰り返して楽しむ。</p> <p>【10月】食べ物や飲み物の名前、色を英語で言ってみよう 内容:身近な果物・飲み物(Fruit,Salad,Drink)の単語を学ぶ。日常のやり取り(Let'splayoutside./Sure./Areyouready?)や歌「ApplesandBananas」を楽しむ。</p> <p>【11月】生きものってなに？お家でできる？内容:犬や猫などの身近な動物(dog,cat,bird,cow,pig,horse)の英単語や鳴き声に親しむ。会話(Areyouallright?/Yes.)、歌「LittlePeterRabbit」、絵本に触れる。</p> <p>【12月】どんなおかしや食べものがある？どんな味かな？ 内容:子どもたちが大好きなお菓子や食べ物(candy,icecream,bread,milk)の単語を学ぶ。食事場面の表現(I'mhungry./Metoo.)、歌「IceCream」に親しむ。</p> <p>【1月】生きものの暮らし方って？陸と水で生きる動物どう違うの？内容:昆虫や動物、海の生き物(ant,butterfly,lion,elephant,fish,dolphin)の単語を学ぶ。やり取り(Wantsome?/Hereyouare.)、歌「EencyWeencyspider」を楽しむ。</p> <p>【2月】遊んで何だろう？どうやって使われている？ 内容:身近な玩具や遊具(ball,doll,slide,swing,TV,vacuumcleaner)の単語を学ぶ。貸し借りの表現(CanIusetthis?/Sure.)、可愛い歌「TeddyBear,TeddyBear」を楽しむ。</p> <p>【3月】形ってなんだろう？/季節でなにがかわるの？(総まとめ)内容:図形や季節(circle,square,triangle,spring,summer,autumn,winter)の単語を学ぶ。お別れの表現(Timetogo./Goodbye.)、歌「Let'sDrawaCircle」やこれまでの大好きな歌・体操の復習を行う。</p>	<p>環境設定: 限られたスペースを有効に使うため、棚などを片付けて子どもたちがのびのびと身体を動かせる広いスペースを確保しました。タブレットやモニターのコード類は、子どもたちが引っ掛けて転倒しないよう事前に整理し、安全面に配慮しました。失敗を恐れずに新しい言葉を自由に試せるよう、温かく見守る開放的な雰囲気作りを心がけました。視覚的に興味を引き出せるよう、地球儀、世界地図、国旗、アルファベット表、英語の絵本や図鑑をスペース内に配置しました。</p> <p>準備物: パパッと英語タブレット、モニター、地球儀、世界地図、各種アルファベット表、英語および日本語の絵本・図鑑。</p>

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>映像の先生や講師の発音によく耳を澄ませて聞き、ポイントを真似しながら積極的かつ意欲的に発音練習に取り組みました。時折クイズ形式やイラスト、ジェスチャー(体で表現する活動)、身体を喜んで動かすエクササイズ(体操)を多く交えることで、集中力を保ったまま自然と言葉に親しめるよう実践しました。また、「melon」と「watermelon」の違いを子どもたちなりに話し合っ て答えを導き出したり、自分の知っている生き物が出てきた際には進んで名前を発表したりする主体的な活動を展開しました。</p>	<p>子どもの姿・声:友だちとの朝の挨拶やごっこ遊びの場面で、自然に「Hello!」と挨拶を交わし合うなど、英語が日々の生活に溶け込んでいく様子が見られました。クイズの場面では、英語がわからず指をさしている子に「LightBlueっていうんだよ」と率先して教えてあげるなど、協力し合う協調性が見られました。単語を知っている年長児が自信を持ってリードし、その頼もしい姿を見て年中児も真似をしながら積極的に参加していました。日本とは異なる動物の鳴き声の違いに笑い声が溢れたり、アルファベットの形に興味を持って自由帳や塗り絵の裏に自発的に書いたりして楽しむ姿がありました。保育者の関わり:子どもたちが英語の名前を知っていて先に発言した際には、その意欲と自信に繋がるようしっかりと認めながら進めていきました。モニターから聞き取りにくかった単語は、保育者がゆっくりと丁寧な発音を伝えることで、子どもたちが安心して真似を繰り返せるようサポートしました。子ども同士が自由に意見交換をする時間を大切に確保し、必要に応じて発音や意味の再確認を一緒に行う関わりを意識しました。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>動物、昆虫、食べ物といった子どもたちにとって「自分の知っている身近な物」が題材であるとき、より強い興味を持って能動的に取り組めることを実感しました。ただ座って視聴するだけでなく、身振り手振りや体操、アルファベットの体現といった「動き」を伴うことで、集中力を高いまま維持できることが分かりました。英語を単なる「教え込まれるお勉強」としてではなく、「世界とつながる言葉」「自分の大好きな物を表現するツール」として出会わせることで、絵本に出てくる単語がわからなくても集中して見ようとする力が育まれると気づかされました。</p>	<p>身近なテーマを英語で表現するアプローチは、日常生活にも自然に取り入れやすく、子どもたちの親しみや意欲を劇的に高めていると評価します。新しさをもたらす新鮮な興味だけで終わらせず、歌の題材や映し出されるイラストなど、子どもたちの好みに寄り添った「飽きのこない工夫」を今後も継続して考えていくことが大切であるとの助言を得ました。また、単に言語の習得にとどまらず、子どもの率直な疑問に寄り添いながら、世界の文化や多様性へと関心を広げる支援が素晴らしいという手応えを確認しました。今後はこの英語活動を起点に、園内の多様な探究テーマや、子どもたちの気になる単語の振り返りとさらに巧みに結びつけ、より主体的で深い学びへと地続きに発展させていける環境構成を共に目指していきましょう。</p>